

お待たせしました！ 「クロスロード新聞」 本格発刊！

2005年12月24日

発行元：108-8345 港区三田
2-15-45 慶應義塾大学商学部
吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

防災に強い味方！ クロスロードファシリテータ続々誕生！

2005年11月4日、高知県庁正庁ホールで、「クロスロード・ファシリテータ研修(市町村職員等災害対応能力向上研修)」が好評のうちに終了しました。

当日午前中のクロスロード体験に続き、午後はクロスロードをファシリテータとして実施する練習などを行いました。春野町の岡内孝之さんの模範実演に続き、グループ代表のみなさんが、高知県オリジナルのクロスロード問題を中心に、解説をしてくださいました。



参加者による解説実演の様子

研修をふりかえって： 高知県危機管理課チーフ土居内淳一さん

高知県では、11月4日に、市町村などの防災担当者を対象に、災害対応ゲーム「クロスロード」のファシリテータ養成研修を開催しました。

次の南海地震では、高知県の死者数は約9600人と想定されており、発災後の応急対応においては、数多くの難しい対応策を瞬時に決断することが求められ、判断の遅れが、さらなる人的被害の拡大につながることも懸念されます。しかも、様々なジレンマを抱え、判断を躊躇したり、決断した後に後悔するケースも多いものと予想されます。

そうした対応を強いられるであろう防災担当職員にとって、今回のクロスロード研修は、今後の防災対応に、必ず役立つだろうと考えていましたし、主催者という立場ではありましたが、私自身も、今年4月に初めて、防災セクションに異動になり、経験が少ない中で、防災の仕事の難しさを痛感していたところであり、仕事を進めるうえで活かしていけれ

ばと期待していました。

実際に、研修を受けさせて頂いて、クロスロードは、過去の災害事例における経験や反省を、自らの問題として受け止め、考えることができることから、思考をトレーニングし、災害対応を考えるうえで、非常に有効な方法であるとあらためて認識しました。

また、経験したジレンマや災害時に想定されるジレンマを、新しいクロスロードとして作成し、共有していくことも、重要だと感じました。

今回、新たに導入された進級制度により、受講者全員がクロスロード・ファシリテータの初級認定を受けました。中級、上級へ進級することもできる制度となっており、今後、それぞれの職場において、業務の中で取り入れながら、お互いが進級していければと期待していますし、今世紀前半にも発生が予想されている南海地震への対策につながっていければと考えています。

目次

続々認定ファシリテータ 1

研修をふりかえって：土居内淳一さん 1

クロスロード進級認定者名簿 2

高知県の多才な人々 3

先を越された！ 3

クロスロード実践報告 4

クロスロード新作問題 5

こんなところに心理学(2) 5

クロスロード裏話 6

「大ナマジン」すごろく新発売！ 6

経験を引き継ごう！ 6

クロスロード次号のご案内
発行予定日：2. 28.

みんなはイエス？ノー？
お待ちかねクロスロードアンケート全国集計発表！

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
SPECIAL THANKS:
高知県危機管理課
小溝智子(漫画企画)

発表！クロスロード進級制度による第1回認定者のみなさん

クロスロード進級認定制度による第1回初級54名、中級5名、上級4名の認定者が以下のように決定しました。

11月4日の研修参加者のみなさんについては、高知県危機管理課課長楠瀬義広様より初級認定証の授与が行われました。

特に記載のない場合、高知県の市町村の方です(敬称略)。研修に参加および実施報告書をお送りくださった皆

様に改めて御礼申し上げます。認定証もお送り申しあげました。

他の地区でも実施の報告をいただいております。応募は随時受け付けております。実施をなさった方は、どうぞ認定制度に積極的にご応募ください。

初級認定者

高知市	瀬良祐介	大方町	友永 公生
	久保輔護	高知市消防	山中 次男
	今西剛也		高橋 慎治
室戸市	山本 勉	室戸市消防	平井 久守
	山崎 桂		森本 観介
安芸市	大野 崇	南国市消防	山下 道雄
土佐市	刈谷 絵美		山下 勝彦
須崎市	梅原 康司	土佐市消防	池上 幸助
	真鍋 智	土佐清水市消防	味元 博文
四万十市	原 憲一	高幡消防	西森 一将
	浦宗 康	高知県	小溝 智子
土佐清水市	三木 和彦		土居内淳一
東洋町	大坪 靖幸		辻 咲子
	長崎 正仁		安藤 大輔
奈半利町	斎藤 正彦		江口 悟
田野町	今井 章博		小松 信幸
馬路村	高橋 晃		五十嵐起世
赤岡町	山下 篤		田中信一
香我美町	野村 泰夫	南国市	門田 秀夫
土佐山田町	柳本 隆司	高知県	酒井 浩一
	田村 剛	高知東高校	谷内 康浩
夜須町	近藤 誠	広島県呉市消防局	林国夫
物部村	山本 奉志	中級認定者	
大豊町	平石 稔	高知県	小溝 智子
	宮岡 秀学		酒井 浩一
大川村	近藤 諭士	高知東高校	谷内 康浩
春野町	岡内 孝之	春野町	岡内 孝之
津野町	山崎 哲人	広島県呉市消防局	林国夫
日高村	戸梶真幸	上級認定者	
	戸梶正一郎	高知県	小溝 智子
	山崎 明		酒井 浩一
佐賀町	青木 浩明	高知東高校	谷内 康浩
		広島県呉市消防局	林国夫



高知県危機管理課課長より初級認定証授与



春野町岡内さんによるファシリテーション

【応募先】108-8345 港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部 吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：06-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

【注目！】電子投稿も可能になりました！
<http://maechan.net/crossroad/toukou.html>

高知県の多才な人々:研修参加者の特技あれこれ

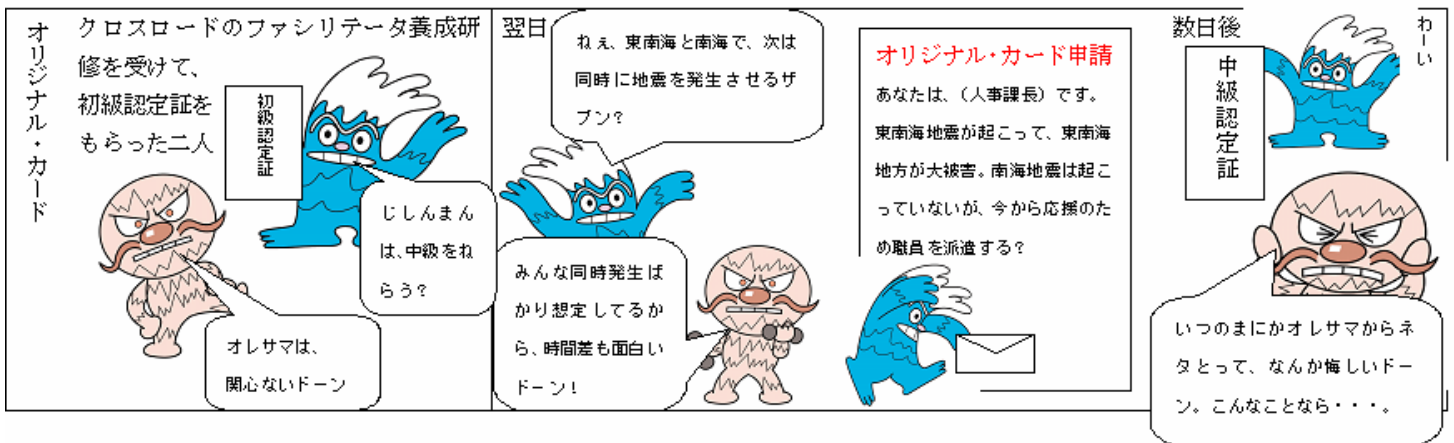
今回研修に参加されたみなさんに特技や趣味をお伺いしました。その特技、ぜひ災害時にもご活用ください。

部門	今回の受講者の回答	活用例
特技	料理	この人を炊き出し訓練の時のシェフ役にしたい。
嗜好	酒好き。 楽しく酔っぱらうこと。 ビールの早飲み。 忘年会の仮装。 鍋焼きラーメンの元祖の店を知っている。	この人に、飲み会を段取ってもらおう。ノミニューケーションは大事。
嗜好	ドライブ、バイク	物資輸送計画、流通担当
知識	競馬の血統に詳しい。	組織の会計が逼迫したら、どんとこの人の予想に賭けてみるのも手。
個人の特性	いろんな事をすぐ忘れることができる。 前向き。	リーダー向き!?
収集	昔のCD収集	イベントの時の音響をまかせてみたら。
語学力	英語	我が活動をグローバルに展開。外国人も自主防災組織メンバーに入れられる。
特技	般若心経が読める	お坊さんまで揃えておくとは、用意周到です。この特技は用がないといいですね。
特技	農作業	地域の備蓄食糧は、畑に！ 防災倉庫ならぬ防災畑の管理ならこの人。
特技	本を割と早く読むことができる。 2時間しゃべり続けることができる。	情報収集に長けた人と人前でしゃべるのが苦じゃないこの人とをジョイントさせ、勉強会の講師にする。
趣味	将棋	将棋の板を地図にかえたら、図上訓練はお得意かも。
スポーツ	サーフィン	「伝説の波がやってくる！」 しかし、津波のときはやめときましようね。
特技	ものづくり	この器用さを、地域の家具固定の普及に活かしてほしい。
特技	剣道、ウォーキング、トレッキング、 スキー、動態視力、バレーボール、野 球、ダーツ	歩くのが苦じゃない人、腕っ節の強い人、目がいい人、寒さに強い人は、不審者から地域を守る夜回りに。野球やダーツの特技の人は、不審者に投げつける蛍光塗料ボールのコントロールがいいかも。
特技	早寝。目覚ましなしで起きられる。 絶対、船酔いしない。いつでもどこでも誰にもばれずに眠れる。	高度の身体能力が、避難所運営や過酷な応急復旧時に活躍？

先を越された！

◎やなせたかし

(活用例解説：小溝智子さん)



読むべし！クロスロード実践の報告です

高知県高知東高校の谷内康浩先生から詳細なクロスロード実践報告をいただきました。実施の写真は右のページに掲載しました。報告をお送りくださった谷内先生に感謝申し上げます。

11月4日の県庁での研修会を踏まえ、11月30日（水曜日）に教職員を対象とした「地震防災に関する校内研修会」を実施しました。テーマは、「防災ゲーム（クロスロードの手法を用いて）を通して、災害時のイメージを広げよう！」実施する方も初めてで、理論から実践の場となりました。これまでに公開されている問題は、主に行政向きのものが多く、学校現場での実施には少し躊躇した面もありました。そのため、スタンダードな方法を少しアレンジして行いました。その特徴は、次の通りです。

・事前に「予想される南海地震」の被害について学習する時間を入れた。

・問題カードは使用せず、すべての問題を書いた1枚のシートを個々に配布し、それには各問いに対する自分の選択、グループでの結果を記入する欄を設けた。

・学校現場の実態に見合った問題を作成した。・座布団ではなく、アメ玉（青座布団相当）、チョコレート（金座布団相当）を使った。

・個人のクロスノートではなく、模造紙大のクロスノートを準備し、各グループで1問を討議して全体発表を行った。（写真参照）個人については、上記の個人シートにメモ欄を設けて、そこに記入してもらった。

◆当日の流れ

1. 予想される南海地震の被害について・・・本校周辺はどうなる？（報告・質問）約20分

2. クロスロードの説明・ゲーム・結果発表（約35分）

※ゲームの進め方（5人グループ7班、7人グループ1班 計42名）

①全体の進行役（1名）が問題を読み上げる。

②全員が自分の意見を決める。

③「せいのー」で一斉に「イエスカード」か「ノーカード」を机に出す

④グループごとに多数派の意見だった人は、全員、アメ玉をもらう。ただし、一人だけ異なる意見の場合は、多数派でもアメ玉はもらえず、一人がチョコレートをもらう。

⑤自分の判断・グループの結果をシートに記入する。

⑥次の問題に進み、この作業を繰り返す。（10問）

3. 各グループでの話し合い（約20分）

①指定された問題について、「クロスノート」（模造紙）に、グループで話し合ったことをマジックで記入していく。

②「クロスノート」が完成したら、他のそれぞれの問題に

ついても、グループで話し合う。

4. グループごとに発表と解説（約35分）

他のグループ・個人で、他に意見があれば、発表してもらおう。

5. 各グループで、新作問題を作成、アンケートに答えて終了（流れ解散）（約20分）

・地震防災に限らず、学校の仕事の中で起こるジレンマでも構わないことを説明。

◆実施後のアンケート結果（抜粋）

1. 今日の研修会は有意義でしたか？

①有意義であった（95.2%）

②どちらかと言えば有意義であった（4.8%）

2. クロスロードをやってみて、多様な意見があると感じましたか？

①感じた（78.6%）

②どちらかと言えば感じた（21.4%）

3. ゲーム時とゲーム後のグループ討議で自分の意見が変わった問題がありましたか？

①ない（81.0%） ②あった（19.0%）

◆実践を終えて

初めての実践でしたが、アンケートや感想文からは、参加した多くの方が、クロスロードの目的を達成したようですし、2日後に実施した地震に特化した防災避難誘導訓練（避難場所・経路、役割を訓練時発表など、従来型から変更）でも、成果を発揮しました。以下感じたことを述べます。

・アメ玉の効能：場の雰囲気作りとともに、余りを各部屋に持って帰ってもらったことで、欠席者との話題の種になったようです。ちなみに、アメ玉の獲得数は最高8個（ただし、7人グループで）、最低0個、チョコレートは最高4個でした。

・各グループでの1問のクロスノート（模造紙）の作成は、20分をかけた班がほとんどでした。グループ内での他の問題の討論の時間が保障できませんでした。が、後の各グループの発表で補えた部分はあると思います。

・グループごとの発表後には、自然と拍手が起こりました。よい雰囲気の中で研修ができたと思います。

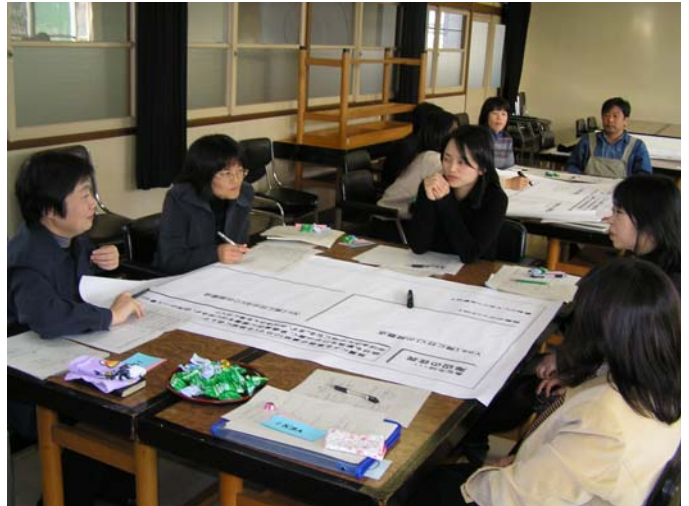
・多くの人が、個人シートを使いメモを取っており、各グループの発表を聞きながら、自分の選択と比較して振り返りができたようです。

◆おわりに

初めてにしては、上手くってホッとしています。学校現場での取り組みはこれからですが、アンケートでは「クロスロードを、LHR（ロングホームルーム）などで本校の生徒に行うことについて、どう思いますか？」の質問に対して、①可能だと思う（47.6%）②工夫すれば可能だと思う（45.2%）という結果も出ており、高校生を対象にした実践も研究しなければと思います。クロスロードの奥は深い……。



各グループのクロスノートの発表の様子



クロスノート書き込みの様子

新しいクロスロード問題を紹介します

皆様からお送りくださっているクロスロード問題を順次紹介していくコーナーです。

「学校教職員。放課して約5分後、地震が発生した。構内に残っている生徒もいるが、半数は下校途中である。停電しているため、放送設備は使えない。生徒を呼び戻すか？Yes(呼び戻す)No(呼び戻さない)。「放課」の用語がいかにも専門家らしく、かっこいいですね。

要援護者版のクロスロード新作も2つ紹介します。「水害時の高齢者避難。避難指示が出ているが足が不自由で避難途上がむしろ心配。自宅2階で待機しても

らう？Yes(待機してもらう)No(避難してもらう)。「私は聴覚障害者。災害のときを考えて要援護者リストに登録した方がいいと言われているが、気が進まない。登録する？Yes(登録する)No(登録しない)」

また、研修後のアンケートで高知県版の改訂版もいただきました。「危機管理課職員。大地震後、参集基準に従い、職場へ向かうが、途中偶然上司が倒壊家屋の下敷きになっていた。幸い上司は元気そうだが、道具でもないと救出困難。救出する？Yes(救出する)No(まずは職場へGO!)」。原文にあった上司のお名前は伏せてありますが、なかなかシビアなジレンマですね。

連載「こんなところに心理学：(2)「私に限って大丈夫」の心理

発刊準備号に続く心理学豆知識第2弾、今回は「私に限って大丈夫」と思いがちな人間の心を解説します。

外国人がよく驚くのは地震大国日本の地震保険の加入率の低さ。中越地震に続く最近の地震の増加で急激にあがってきたとはいえ、37.4%にとどまっています(平成16年現在)。クロスロード市民編にもある問題(加入する？しない?)ですね。耐震診断の申し込み、既存不適格住宅の改修率の低さも指摘されています。

同様の現象は、災害時の避難率の低さとして知られています。一般的な水害における避難率は、避難勧告が発令された住民の1割から2割程度であることが各種の調査から明らかになっています。

心理学では、このように人々が自分に迫る危険をあまく見る傾向を「非現実的楽観主義(unrealistic optimism, アンリアリスティック・オブティミズム)」とっています。「楽観主義」というのは「大丈夫」と考える考え方をさします。またそれを「非現実的」としているのは、「私だけが」大丈夫と考える根拠が全然ないからです。このことは、特に災害の分野では、大変な状況を通常と変わらないと判断してしまう「正常化の偏見」という名前で知られています。

どうしてこういうことが起こるのでしょう？2つの有力な説明があります。1つは、自分の身が危険にさらされているという心理的な負担に、そもそも人間は耐えられないという説明です。たとえば、病気が発見されるのが恐いから健康診断を受けない、と言い張る人、あなたの身近にもいませんか？

ふたつ目の説明は、人間は矛盾する情報があると、一方を都合良く割り引いて考えるというものです。「大雨で土砂崩れが起こりそうだとテレビで言っている」という情報と、「私の家はがけ近くに建っている」という情報(事実)が2つあるとすると、「危険と知りつつ避難しない私」ということになります。こうした矛盾した状態にあるのはその人にとっては不愉快なので、なんとか矛盾を解決しようと努力します。しかし、身体を動かして避難するのはおっくうなものですから、「そうはいつでも、うちの家は去年の大雨でも大丈夫だった。まあ、ことしも大丈夫だろう。」というように、肝腎の情報を割り引いてしまうのです。

せっかくの情報も割り引いてきかれては、意味がありません。「本当に危ないんですよ。」「あなたのことですよ。」と、辛抱強く啓発していくことが必要になりますね。

クロスロード「裏」話：新聞だけの最新情報お届けします！

「アンケート版：クロスロード」、ご存じですか。このアンケート、カード版のクロスロードで現在公開中の項目に、カード版では未公開の新作項目を加えた30項目、および、人間心理に関する調査項目から作られています。「この項目、平均するとYESが多いの、それともNOなの?」、「防災の専門家と一般住民とでは意見が違いますか?」—このような質問をたくさん頂戴し、それなら…という気持ちで作成したのが、このアンケート版です。

現在、マークシートで回答する調査用紙バージョンと、インターネットで回答できるウェブバージョンを作成し、続々データ収集中です。(すでに調査にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！)

まだデータ収集中なので、今回は、データのほんの一部(高知県ファシリテーター研修で実施した調査の結果)をご紹介します。細かな調査結果報告については、もう少しお時間をください。他地域を含む全国調査を次号でご報告申し上げます。

みなさんの意見が一致した項目は2つ。「家族が心細そうにしているが出勤するか」、「遺体安置所の業務でクタクタだがいったん休憩するか」という項目。それぞれ、「出勤する」、「休憩する」の回答が88%を占めました。逆に、大きく意見が分れたのが、「指定避難所でない庁舎が自然発生的に避難所になったとき、避難者に出て行ってもらうか」。YES51%、NO49%で、賛否伯仲。今のところ、難問NO1というわけです。

新発売！「家族で防災1年間:大ナマジンスごろく」

ことし1月1日の神戸新聞に掲載された「わが家の防災大作戦!時の魔人がくるまでに」が、デザインを一新し、12月24日より京大大学生協より発売となりました(1600円。送料別)。

遊びながら、毎月防災の備えを確認できる内容となっています。でもご用心!ゆっくりしていると、みなさんの後ろから追ってくる「大ナマジン」に捕まってしまう。大ナマジンに捕まる前に、防災の備えをしつつ、ゴールにたどり着きましょう。

【注文先】

〒606-8317 京都市左京区吉田泉殿町 京大西部会館大学生協ブックセンター(担当)鯉迫伸一

電話：(075) 771-7336

FAX：(075) 751-8045

<http://www.s-coop.net/index.html>



経験を引き継ごう！

◎やなせたかし

特製コマもついています(写真右上)

<p>Z E R O</p> <p>一人の人間でいうと、「知識」や「経験」が重なる度、賢くなる。防災セクションが長くなると、こう呼ばれるカリスマ職員もでてくる。</p> <p>よっ、じしんの●●さん！！</p>	<p>しかし、時の魔人は突然やってきて、その人にこう言う。</p> <p>異動だザブーン!</p> <p>辞令書</p>	<p>そして、組織は、またゼロに戻る。</p> <p>なぜか、人ほど組織は賢くならない。</p> <p>???</p>	<p>〇〇県版カード</p> <p>あなたは、(防災課長)です。夜中の集中豪雨で床上浸水。避難勧告を住民に出すよう知事に申言する?しない?</p> <p>だけど、その人の経験をクロスロードに残せば、引き継げる!!</p>
---	--	---	--